

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K12620

研究課題名（和文）ケアの倫理の再定位をめざす研究：ネオ・リベラリズムに対抗する公的規範として

研究課題名（英文）Research on a relocation of care ethics: Towards a public norm against neo-liberalism

研究代表者

岡野 八代（Okano, Yayo）

同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授

研究者番号：70319482

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の期間中、コロナ・パンデミックにみまわれた。そのなかで、歴史的に女性たちがになってきたケア労働が、社会生活を支えていること、にもかかわらずその評価が低いことに注目が集まった。本研究では、フェミニスト政治理論、フェミニスト経済学の知見を援用することで、なぜ、市場経済においてケア労働の評価・報酬が低いのか、そして、伝統的な哲学においても、他者の手を借りずには生存を維持することができない存在をケアすることが、人間的な実践だと認められてこなかったことを明らかにし、翻って、いかにケアすることが人間的な営みなのかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究期間中、社会生活において不可欠なエッセンシャルワークとしてのケア労働、ケア実践とはどのような営みであるのかを、広く社会的に発信することができた。また、とくに日本社会において女性たちの地位が低い、政治的交渉力が弱く経済的にも脆弱であることの根幹には、ケアの社会的評価の低さがあり、またケア労働を女性たちが一手に引き受けていることが当然視されているという問題があることを明らかにした。学術的には、ケアの倫理を考察してきたフェミニスト理論は、伝統的な正義論が正義の射程に収めてこなかった不正や暴力を、不正義であると訴えてきたのだと位置づけることができた。

研究成果の概要（英文）：During the period of this study, the country was hit by the COVID-19 pandemic. The study focused on the fact that care work, which has historically been performed by women, maintains social life and yet is undervalued. By drawing on feminist political theory and feminist economics, this study clarifies why care work is undervalued and underpaid in the market economy, and why it has not been recognized as a human practice in traditional philosophy to care for those who cannot sustain their existence without the help of others. In turn, it reveals how caring is a human activity.

研究分野：政治思想

キーワード：ケアの倫理 フェミニズム理論 相互依存 政治思想 脆弱性 民主主義

1. 研究開始当初の背景

国際的に規範理論の分野では、ケアの倫理とリベラリズムとの関連、とりわけ正義論といかなる関係性にあるのかといった関心から、ケアの倫理に対する関心が高まっている。また、医療看護や社会学の分野においては、少子高齢社会におけるケア・ニーズの高まり、それに付随するケアの担い手不足といった観点から、ケア・ワークに対する注目度は高まっている。しかしながら、応募者の属する規範理論の領域に限ると、フェミニズム理論の一つとしてのケアの倫理研究の重要性が十分に理解されていない。たとえば、ケアの倫理研究の嚆矢である『もうひとつの声で』において、「ひとはいかに道徳的葛藤を問題として捉えるのか」という問いに答えるために試みられた三つの調査のうちの一つが、「妊娠中絶の決定に関する研究」であった。そして、既存の道徳論が聞き取ってこなかった「もうひとつの声」の分節化を試みたギリガンの研究において、この研究は重要な位置を占めていたにもかかわらず、当時の合衆国で最も政治的な課題であった中絶問題とケアの倫理との理論的連関について論じた研究は日本には存在しない。

他方で、欧米フェミニズムの理論状況を概観すると、ケアの倫理研究がフェミニズムの文脈から切り離して論じられることはないものの、現在主流となりつつある解釈は、ギリガン、サラ・ルディク（『母的思考』(1989)）など、女性に固有の原理を求めた（と評され、差異派フェミニズムに分類された）第一期と、ジョアン・トロント（『道徳の境界』(1993)）、エヴァ・キテイ（『愛の労働』(1999)）ら、正義論との対話を経て、ケアの倫理を実践的な規範とし、社会政策や民主主義とのかわりを強調する第二期に、ケアの倫理を分類する。そして、第一期における理論的限界を克服し、第二期にみられる議論を引き継ぐものとして、ケアの倫理を公的規範として提唱する研究が続々と登場している。

以上の国内外のケアの倫理をめぐる理論動向に加え、欧米、そして東アジアをも含めたネオ・リベラリズムの潮流による国際的な政治状況の急激な変化に対して、ネオ・リベラリズムを批判的に分析し、そしてオルタナティブな社会を提示しようとする、ケアの倫理研究者たちの新しい動きが生まれつつある。

2. 研究の目的

本研究は、次の三点を目的にしている。ケアの倫理の源流を第二波フェミニズム理論とその実践に探りながら、他方で、現在のグローバルに展開するケアの倫理研究が、なにと格闘し、どのような課題に取り組もうとしているのかを明らかにすることを目的としている。そして、最終的には、この成果を総合し、最新のグローバルなケアの倫理研究の展開のなかに、再度、第二波フェミニズムと密接不可分なケアの倫理の中心的課題を位置づけることである。

3. 研究の方法

本研究は、上記の目的を達成するために、以下の三つの方法を試みる予定であった。ただ、2020年度以降の新型コロナ・ウィルスのパンデミックにより、本来予定されていたの課題を果たすための、国際的な研究ネットワークの構築や国際会議での報告は2019年度までしか遂行できず、全うすることができなかった。

以下、遂行した方法については、の課題を果たすために、あらゆる抑圧、差別、ヒエラルキー、そして暴力と闘ってきたフェミニズムの歴史的・理論的文脈に、ケアの倫理研究を位置づけた。そのため応募者は、キャロル・ギリガンの著作を70年代に遡りつつ、家父長制を厳しく批判し(The Deepening Darkness, 2009)、異なる声を通じて民主主義論を展開する近年の彼女の議論を援用しながら(Joining the Resistance, 2011)、合衆国の第二波フェミニズム理論、とくにマルクス主義をめぐる議論の再解釈を試みた。

の課題は、パンデミックによって対面での交流ができなくなったが、それゆえに発達したオンラインでの会議やケア関連研究者たちのメーリング・リストで、多くのケア問題をめぐる情報がやりとりされ、申請者もそこに参加し、各国におけるケアワークへの最重点化を求めるシンポジウム等にも参加することで代替することができた。

の課題については、パンデミックのなかで社会的に注目を浴びたエッセンシャルワークとしてのケア労働の社会的価値について中心的に研究してきたフェミニスト経済学の知見を学ぶことで、現在のケア労働の社会的・経済的評価の低さを考察するために第二波フェミニズムが発見した不払い労働や再生産労働といった概念が果たしている役割を抽出した。

4. 研究成果

研究成果は主に、フェミニズム理論の歴史においていかにケアの倫理を位置づけるか、現在の政治構造における、ケアの倫理のもつ批判的可能性と、新しい社会構想への展開の二つに大

別できる。

については、ケアの倫理を民主主義理論と接合することを試みる、ジョアン・トロントの研究について、政治思想史研究からケア研究へと軸を映していく彼女の研究史を辿ることができた（成果については、その一部を論文「ケアの倫理は、現代の政治的規範となりうるのか？」として、また、全体像については、『ケアするのは誰か？』として2020年に公刊）。また、ケアの倫理を正義論との対決といった日本の倫理学において論じられがちなケアの倫理の布置を、合衆国におけるフェミニズムの歴史のなかに位置づけなおし、ケアの倫理を理解するための文脈を明確にすることができた。とくに、2000年代以降の政治理論における倫理への回帰といった現象のなかに、ケアの倫理へのフェミニスト理論家たちの着目を位置づけ、政治理論において、一般的で普遍的な社会規範を掲げる「道徳」ではなく、周辺化された個別具体的な声から社会変革を模索する「倫理」の一つの形態がケアの倫理であったことを論証した。

については、新型コロナウイルス・パンデミックのなかで注目されたエッシャル・ワークの一つとしてのケア労働について、不可視化されてきたケア実践とケア労働がもつ社会的意義を考察することができた。とくに、日本ではオリンピック開催が強行されたり、ある特定の産業には多大な支援がなされたりした一方で、医療はいうまでもなく、保育や介護、介助を担う事業主や労働者から、過重な負担にみあう報酬がないことへの批判がなされ続けたにも関わらず、なぜ政治はしっかりと応えようとしなかったのか、あるいはできないのかといった分析を行った。

ケアの倫理をめぐるのは、政治的原理の一つとしての正義、つまり普遍的で不偏の公正原理に対して、文脈依存的で偏狭のきらいがあると批判されてきたが、むしろ文脈に分け入り、個別の事例に柔軟に対応することが、現実の政治では求められていることも確認できた。その途上で、フェミニスト経済学におけるケア経済概念の発展を学んだ。フェミニスト経済学の蓄積のうえに、無償、あるいは低賃金でケアを担う者が被る搾取と、ケア労働の報酬の少なさと社会的価値づけの低さゆえ被る、政治的交渉力のなさといったケア・ペナルティ（ケア罰）の実態が分析できた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 952
2. 論文標題 ケア/ ジェンダー/ 民主主義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 92, 106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 1289号
2. 論文標題 ケアと民主主義 - - ケアされる人を中心とする新しい政治を求める	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週刊金曜日	6. 最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 22
2. 論文標題 批判的安全保障とケア - - フェミニズム理論は「安全保障」を語れるのか？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ジェンダー研究	6. 最初と最後の頁 61- 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 1152
2. 論文標題 ケアの倫理は、現代の政治的規範たりうるのか？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 6-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 5
2. 論文標題 フェミニズムにおける政治と政治学教育の緊張関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新潟国際情報大学国際学部紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 73
2. 論文標題 ケアの公正な配分から、民主的なケア実践へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 53-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 岡野八代
2. 発表標題 脱政治化/ 無力化された者たちの連帯は可能か? ケアと労働のはざま
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yayo Okano
2. 発表標題 Looking at "the Girl Statue for Peace" from the Perspective of Care Ethics,
3. 学会等名 Global Care Summit (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡野八代
2. 発表標題 フェミニズムにおける政治と政治学教育の緊張関係
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡野八代
2. 発表標題 ケア/ ジェンダー/ 民主主義
3. 学会等名 関西社会学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡野八代
2. 発表標題 政治におけるジェンダー平等
3. 学会等名 ジェンダー法学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Yayo Okano	4. 発行年 2021年
2. 出版社 University of Minnesota Pr.	5. 総ページ数 314
3. 書名 Care Ethics in the Age of Precarity	

1. 著者名 ジョアン・C・トロント、岡野 八代	4. 発行年 2020年
2. 出版社 白澤社	5. 総ページ数 160
3. 書名 ケアするのは誰か？	

1. 著者名 Petr Urban, Lizzie Ward (eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 332
3. 書名 Care Ethics, Democratic Citizenship and the State	

1. 著者名 Jieyu Liu, Junko Yamashita	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 436
3. 書名 Routledge Handbook of East Asian Gender Studies	

1. 著者名 牟田 和恵、岡野 八代、丸山 里美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 白澤社	5. 総ページ数 208
3. 書名 女性たちで子を産み育てるということ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

同志社大学フェミニスト・ジェンダー・セクシュアリティ研究センター
<http://drc-fgss.com/>
同志社大学研究者データベース
<https://kendb.doshisha.ac.jp/profile/ja.c5ef1018b7b53ef5.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------